

福原会長 ナポリターノ大統領歓迎スピーチ

- ・ 日伊ビジネス・グループ日本側会長を務めております福原でございます。
- ・ ジョルジョ・ナポリターノ第 11代イタリア共和国大統領閣下におかれましては、お忙しいスケジュールのなか、当 UBG にご臨席いただきまして、たいへんに名誉なことと、改めまして、心より歓迎申し上げます。
- ・ 先ほど、当館正面玄関にて、日本在住のイタリアの子供たちによるイタリア国歌の合唱により大統領閣下ご夫妻をお迎え申し上げました。子供たちが、「シピオの兜 (かぶと) をあたまに戴き、勝利は何処にあらん」と誠に勇ましい歌詞を一生懸命に歌っておられました。
- ・ ご承知のように、「シピオの兜を」の、シピオ (スキピオ) は、イタリアが経済的にも、文化的にも世界をリードしていた時代の代名詞でともいえるでしょうか。
- ・ そして今、歴史と文化に支えられた日本とイタリアが協働でグローバル社会をリードしていく術について、第 21回目を迎えました本日の日伊ビジネスグループで、議論させていただいております。
- ・ 大統領閣下がお好みになられるソネットは、14 行から成る定型詩でルネサンス期にイタリアで創始され、英語詩にも取り入れられ、代表的な詩形になったそうです。
- ・ イタリア風ソネットは、前 後半 2つの部分から成り立っていて、前半部は八行連で問いを提起し、それに続く後半六行連で答えを与える、という形式になっているそうです。そして、典型的に、九行目は、問題提起から解答への移行を示す「ターン」となる大切なフレーズであるとうかがっております。
- ・ 私ども UBG は、昨年 20回の節目を迎え、テーマ別の分科会を設置するなどの組織の見直しを図り、これまで培った強固な日伊の信頼関係のうえに、新たなステージを切り開こうと試みているところです。ソネットにたとえると、まさしく、九行目の「ターン」に差し掛かっているのです。

- 会議のはじめにお話し申し上げたのですが、この 1 年数ヶ月に世界史に残るような数多くの出来事がありました。これからも常識では考えられなかったことが起きるに違いありません。そういう意味でも、今こそ私たちは時代の「ターン」を深く考えなければなりません。
- このような時期に、本日は素晴らしい機会をいただきました。1953年から 50年以上にわたり、時代と対峙しながら、国政に携わってこられました大統領閣下に、長いご経験から、グローバル社会へ日伊協働で挑む私どもに、是非メッセージを賜りたくお願い申し上げます。本日のご来臨、誠にありがとうございます。
- 続いて、ザッパ会長からも歓迎のお言葉を申し上げます。
それでは、ザッパ会長、よろしく申し上げます。

以 上